

調布市薬剤師会 令和8年2月理事会

日時：令和8年2月12日（木） 19:30～22:10

場所：調布市薬剤師会事務所及び Zoom ハイブリッド形式

参加者：石川・飯島・平山・浅見・三井・原・小幡・布瀬川・白木・村山

事務局 西原

《連盟》（石川）

- 1/21 調布市医師会武見敬三講演会  
⇒1月21日に調布市医師会主催で開催。医療政策に関する講演が行われました。
- 1/23 伊藤達也決起集会  
⇒グリーンホール小ホールで行われ、立ち見が出るほど大盛況でした。
- 2/8 衆議院選挙結果  
⇒ 調布市薬剤師連盟が推薦した伊藤達也候補が当選しました。  
⇒今後の課題:2年後の参議院議員選挙（神谷氏）に向け、知名度と実力を高める必要がある。

《報告事項》

1. 会長会報告（石川）

- 1/15（木）会長会報告
  - 新卒薬剤師初年度会費無料化に伴う会費規程の改定（協議事項）  
⇒日薬・都薬の方針に倣い、地区薬剤師会でも免許取得後1年間の会費を無料とする方向で検討。  
継続審議: B 会員の入会金（5万円）をどのタイミングで徴収するか、不公平感のない運用について次回理事会に再協議し、総会議案とする予定。
  - 地域における夜間・休日の医薬品提供体制リストの継続的更新（協議事項）  
⇒詳細は在宅「地域医薬品提供体制強化のアクションリスト」報告
- 2/7（土）会長会報告  
冒頭高橋会長緒言  
⇒**調剤基本料2の範囲拡大**（1/23 短冊）:新規薬局に限定されたのは良かったが、範囲拡大を阻止できなかったのは残念でした。  
⇒**OTC 類似薬の負担増**: 自民党の大勝により連立与党内での維新との力関係が変わることで、まだ決まっていない詳細な部分が自民党の主張寄りに変わる可能性があります。  
⇒**個別指導**: 保険薬局に対する個別指導が増えており、全国での返還額が昨年1年間で約1億円に達しております。調剤報酬の誤った解釈による算定ミスが見受けられるとのことです。
  - 会員・非会員をつなぐ地域薬局連携の取組事例の共有  
⇒玉川砧薬剤師会が LINE のオープンチャットを導入して、会員・非会員で連携していて、災害時にも連絡できる体制を構築しています。通常の LINE とは異なり、その部屋限定のニックネームで参加することでプライバシーが保てるため、気軽に参加できるのが利点です。欠点は管理者が投稿のルールを決めるなどしないと部屋が荒れる可能性があることです。CPA は既に40名以上が参加している line ワークスへの参加者を更に増やすことで災害時の連絡手段も見据えて活用していく予定です。
  - 令和7年度医療機関等における賃上げ・物価上昇に対する支援事業  
⇒賃上げ支援として前回改定では調剤基本料が上げられましたが、次期改定では調剤のベースアップ評価料が新設されます。前回改定時の医科と同様、賃上げの実績報告が求められることになりそうです。
  - 「令和8年度 調剤報酬改定に関する医療保険地区指導者研修会」参加者募集 3/21（土）

⇒地区から1名派遣。理事の中から後日参加者を決定します。

## 2. 小児休日診療調剤業務（布瀬川・白木・村山）

- 進捗状況⇒年末年始は大きな混乱なく終了。引き続き、医師会側に約束処方を使ってくださいということをお願いし続けようと思います。

冷蔵庫のトラブルがあったものの太陽薬局の冷蔵庫を急遽お借りして事なきを得たが、その後、調布市が準備したディープフリーザーが誤って-40℃に設定されてしまい、保管していた薬がすべて凍って破棄となってしまった。応急処置として4℃から設定変更できないようにテープで留めました。

⇒4~5月分の当番募集を開始します。会員薬局勤務及び会員であれば参加できますのでよろしくお願い致します。

## 3. 新医療ステーション（布瀬川・白木・村山）

- 進捗状況⇒特になし

## 4. 学生受け入れ（飯島）

- 2/5（木）令和8年度指導薬剤師ミーティング

⇒集合研修の意義を共有し、運営体制の見直しをしました。理事の負担分散のため担当制を導入することになりました。

- 令和8年度学生受入第1期実習 2/16（月）スタート

⇒今期は過去最多の8名を受け入れ予定。学校薬剤師の環境検査も皆さんが協力して手を挙げてくれて、感謝しています。

⇒伝達講習会でハラスメントに留意してほしいことをすごく強調されました。この資料は学生受入だけでなく他にも役に立つので理事のワークスにアップしておきます。ぜひ一読ください。

- 予定2/15（日）より質の高い実務実習を目指すためのADWSについて 飯島・平山参加予定

## 5. 防災（石川・布瀬川・白木・村山）

- 1/22（木）調布市災害医療対策本部図上訓練（石川）9:00~13:00 たづくり

**訓練の規模と参加者:** 文化会館「たづくり」に市の「災害対策本部」（4F）と「災害医療対策本部」（3F）を設置し、市防災課職員や4師会、連携病院（調布・東山）計30名程度が参加して行われ、より実践に近い対応訓練を行いました。

**内容:** 冬の朝の首都直下地震発災を想定し、本部での情報調整と病院への指示伝達を訓練しました。

**主な想定:** 国領駅での電車脱線（負傷者40名）、調布病院近隣での住宅火災、調布駅での雑踏事故に対する対応（救助要請、患者受入、搬送）を訓練しました。また並行して各病院における緊急医療救護所の設置に伴いCPAに対しては薬剤師の派遣が求められました。

**課題:** 発災時の情報共有のため、会員及び会員薬局の薬剤師と相互に連絡の取れるシステムを構築することが必要です。

- 1/31（土）東京都DMAT訓練（石川）

**訓練の規模と参加者:** 東京都内12医療圏全ての災害拠点病院およびDMAT・JMAT・DPAT等および調布市が地域自治体代表として参加

**内容:** 発災後のDMAT派遣先の調整や、他県から流入する部隊の受け入れ体制の確認などが行われました。

**重点項目:** 能登半島の地震を教訓に、直接死よりも多いとされる「災害関連死」を防ぐための対策が意識されました。

**支援の範囲:** 救急対応などの急性期だけでなく、避難所における要配慮者へのケアや、急性期以降の継続的な支援体制の確立までが訓練範囲に含まれました。

- 2/11（水）JMAT研修会（布瀬川）

**研修内容:** 事前に3時間の動画学習とテストを行い、当日は朝9時から17時まで実技を含む過酷な訓練が実施されました。トリアージ訓練やクロノロジー（経過記録）作成の難しさが共有されました。

**実戦への問い:** 発災時に調布市内の拠点が立ち上がるまでの時間や、自身が招集されてから集合できるまでの時間など、実戦を想定した際の迅速な行動が課題として挙げられました。

**通信・名簿の懸念:** 都内では高い建物が密集しているためスターリンクが使用できない可能性があり、通信手段に不安が残ったほか、在宅介護利用者の一部が要支援者リストに含まれていない実態も浮き彫りとなりました。

➤ 2/25（水）12団体合同研修

⇒薬剤師会も共催団体として入っているので、ぜひ多くの会員に参加してもらいたいです。

## 6. 学術（平山・浅見）

➤ ⇒地区研予定：3/1 府中市薬剤師会担当 9月狛江市薬剤師会担当 R9.3 調布市薬剤師会担当

## 7. 在宅（平山・浅見）

➤ 地域医薬品提供体制強化のアクションリスト 進捗状況報告（平山）

⇒今、アクション2まで進んでおり、会員・非会員にアンケートを送っている。

➤ 2/3（火）第3回地域医薬品提供体制強化に向けたブロック会議（平山・浅見）

⇒各市の進捗状況

**狛江市:** 自己点検票の進行は遅れていますが、アイトピアセンター（健康課）にチラシを設置済みです。  
市役所への説明は未着手です。

**小金井市:** アンケートは未着手で、行政への周知も雑談レベルに留まっており、反応は薄い状況です。

**調布市:** アンケートを実施し、システムの整備も進めていますが、行政への周知や訪問は未完了です。

**府中市:** 自己点検は未着手ですが、備蓄薬品リストについては「ファルモ」等のシステム選定を検討中です。  
行政や医師会への周知を予定しています。

**三鷹市:** 管理センターがあるものの、費用の面などで進捗が遅れています。

**武蔵野市:** 会議不参加のため状況不明です。

⇒重要事項・注意点

**加算要件について:** 地域の薬局間での医薬品リスト共有等が、地域支援体制加算の要件に該当するかは現時点で不明です。

**勧誘時の注意:** 加算を誘引材料としてシステム導入を勧めないよう注意喚起がなされました。

⇒**薬局ガイド** 会員薬局に配置と言われて配布した後に、行政・医療機関に配布と言われて追加印刷を発注済み。今後、医師会会員病院・歯科医師会会員歯医者・ケアマネ・拠点病院などに配布予定。

➤ 11/30（日）薬業連携実践推進担当者研修会（浅見 前回遅刻のため報告できず）

⇒日本橋で約70名が参加し、入院・退院時の連携について議論。入院時に「お薬手帳」を持参しない患者が多く、詳細な用法用量が不明なため病院薬剤師が困惑している。また、退院時サマリーの送付やフィードバックが薬剤師個人の裁量に依存しており、情報が届いているか不透明な現状がある。在宅をしている薬局がどこなのかわからないという声もあがった。薬局ガイドチラシを病院にも配布する予定。

➤ 1/17（土）在宅・療養多職種連携研修会（白木）

⇒いろんな方が演題でお話していただき、その中でも、石川県の金沢市の薬剤師が行った能登半島地震についてのこう支援活動の話についてお話しします。

**災害時における薬局・薬剤師の役割**

- ・ **支援活動の共有:** 石川県金沢市の薬剤師による能登半島地震での支援活動について報告されました。
- ・ **災害関連死の防止:** 薬局が持つ情報収集力、迅速な判断力、在宅医療のアセスメント能力を活用し、災害

関連死を防ぐことが目標として掲げられました。

- ・ **具体的な対応策:** 発災直後の開局判断、避難所での薬剤管理と心理的ケア、モバイルファーマシーの運用、法的特例の適用など、地域の医療資源を最大限に活用した体制構築の重要性が説かれました。
- ・ **事前準備の重要性:** 災害に強い医療体制づくりのため、事前の準備と多職種連携が不可欠であることを改めて確認しました。

#### ➤ 災害時のオンライン資格確認（アクティブ化）石川先生補足

- ・ **情報の閲覧:** 被災地などの特定の地域では、オンライン資格確認が「アクティブ化」される運用があります。
- ・ **本人の同意不要:** 通常はマイナ保険証による本人確認と同意が必要ですが、アクティブ化された地域では、これらがなくとも薬局側で薬歴等の履歴を閲覧することが可能です。
- ・ **有効性:** お薬手帳を紛失・持参できない被災者に対し、迅速かつ正確な調剤を行う上で非常に有用な仕組みであると共有されました。

➤ 予定 2/26（木）地域連携会議（浅見）

➤ 予定 3/6（金）ICT による医療介護連携協議会（浅見）

### 8. 医療保険（白木）

➤ 2/8（日）医療保険指導者養成講座（白木）

#### ⇒研修報告

**研修時間:** 2 時間半から 3 時間のディスカッションと、約 1 時間の座学で構成されました。

**座学のテーマ:** 令和 8 年度調剤報酬改定に向けた現状分析が中心でした。

- 集中率が高い薬局の推移や損益率、医療モールにおける集中率の実態。
- 地域支援体制加算の届け出状況や、調剤管理料の見直し、調剤室の面積に関する議論。
- 特別区・政令指定都市における薬局の実態や、僻地における議論など多岐にわたる内容が共有されました。

#### ⇒ディスカッションと学び

**検討内容:** 症例を基に、医療保険や介護保険をどのように駆使して患者に貢献できるかというテーマで議論が行われました。

**他地区との交流:** 知識豊富で積極的な他地区の薬剤師から大きな刺激を受け、医療保険制度について学び続ける必要性を痛感したとのことでした。

#### ⇒受講を終えて

東京都薬剤師会の高橋会長より、「算定自体を目的とするのではなく、患者第一の姿勢が重要である。

その結果として適切に算定できるよう意識を持つべきだ」との訓示があり、薬剤師としての原点を改めて認識する機会となりました。

### 9. 学校薬剤師（小幡）

➤ 12/13（土）令和 7 年度 東京都学校薬剤師担当者連絡会議（小幡・石川）

⇒松本俊彦先生よりオーバードーズ問題に対し、「ダメ。絶対。」という拒絶ではなく、SOS を出せる「自殺予防教育」の視点を取り入れるべきという視点到った講演があり大変有意義な機会になりました。

⇒薬育に熱心な小平市薬剤師会福田先生と、来年度の共同取組の計画をすすめています。

➤ 12/18 社協打ち合わせ（小幡・石川）

⇒11 月の講演を機に、若者・子ども支援に積極的な社協担当者と意気投合し、連携が始まりました。

社協の幅広い相談窓口と薬剤師会は親和性が高く、今後多職種間での共同活動を考えています。

➤ 1/15 富士見台小薬乱防止授業（小幡）

⇒「ダメ。絶対。」という恐怖訴求から、背景にある「生きづらさ」に寄り添い、子供たちが互いに支え合う「ゲートキーパー」を目指す内容へ刷新しています。正論（ダメ、絶対）を強調しすぎると、実際に悩んでいる子への差別やクラス内の分断を招く恐れがあるため、学校側も手法の見直しが必要だと考えています。

➤ 1/29（木）調布市学校保健会役員会（小幡・田子・吉田）

⇒現在、調布市内では浮遊粉塵の数値が基準を超え、再検査となる学校が増加しています。本検査は学校薬剤師ではなく専門業者へ外部委託されていますが、児童不在時の検査の妥当性について教育委員会から相談がありました。メーカーへ確認したところ、「粉塵は静置状態で堆積するため、児童不在でも検査結果に問題はない」との回答を得ました。なお、数値上昇の主な要因として「換気による外部からの土埃」や「冬場の加湿器によるミスト」が挙げられます。異常値による教室使用停止等の事態を避けるため、これらの要因を学校薬剤師間で共有し、現場での適切な判断に活かしていく方針です。

➤ 「学校と学校薬剤師 2025～広がる活動・もとめられる役割～」

⇒学校薬剤師に希望を聞いて、必要とする先生にはCPAで購入する

➤ 学校保健会広報誌

⇒小幡先生が原稿執筆済。近日中に配布予定。

## 10. 新年会について（三井）

➤ CPA 新年会・名簿交換会 報告（三井）

⇒1月10日 新年会

- 実施報告: 白木先生・布瀬川先生・村山先生の司会のもと、35名が参加し無事終了。
- 課題: 理事以外の一般会員の参加が7名と少なかったため、今後の集客が課題。
- アトラクションの見直し:
  - 限られた時間（2時間）の中で、ビンゴを行うと歓談の時間が不足するとの意見が出た。
  - 司会者がゆっくり食事をとれない。
  - 他地区（狛江・府中）の事例として、受付での「くじ引き形式」であれば時間が短縮でき、効率的であるとのアイデアが共有された。

⇒1月28日 名簿交換会

- 実施報告: 今回は幹事ではなく参加のみであったため、円滑に参加できた

➤ 府中市・狛江市 新年会 報告（飯島・石川）

⇒狛江は、くじ引き方式での景品配布であり、短時間で終わった。

⇒府中は、オペラがあった。交流はあまりできなかった。席が動けない。

## 11. 薬物乱用防止及びタバコ対策（原）

➤ 2/9（月）第17回調布市タバコ対策推進協議会

⇒イベント・啓発活動:

- ・3月末の調布駅前広場完成記念イベントにて、タバコ対策ブースを出展予定。
- ・福祉まつりへの出展や、世界禁煙デーに合わせたライトアップの啓蒙を薬剤師会でも推進する。

⇒禁煙治療・教育:

- ・禁煙治療薬（チャンピックス）の出荷再開に伴い、医師会を中心に禁煙指導を活性化させる。
- ・学校での薬物乱用防止教室においても、禁煙に関する内容を積極的に取り入れる。

⇒社会動向:

・企業（アフラック）や大学（電通大）では、入社・入学時に「喫煙しない」という誓約書を取ることがスタンダードになりつつあり、さらなる喫煙率低下が期待される。

➤ 2/10（火）第75回社会を明るくする運動 第2回調布推進委員会

街頭活動: 配布効率向上のため、来年度も駅前啓発活動を調布駅に集約して実施。

広報連携: FC 東京の試合合間の時間を活用した広報活動に手応えがあり、継続を検討。

## その他会務報告

### ➤ 事務局の体制変更について (石川)

事務局の河野さんが2月27日をもって自己都合退職。

理由: 家族の看病による時間不足と、職務適性の不一致。

影響: 3月より事務局は2名体制へ移行。

### ➤ 1/7 新春のつどい 調布市商工会主催 石川の代理で西原さん参加

### ➤ 1/20 健康づくり推進協議会 (石川)

会議内容: 調布市新型インフルエンザ等対策計画の策定に当たり、都や国の同対策計画との不整合部分を修正し、承認されました。

次年度予定: 市のがん検診について「費用対効果」の面から対象範囲などの見直しが行われる予定です。

新事業: 来年度より、妊婦へのRSウイルスワクチン接種が始まります

### ➤ 1/30 介護職向け研修会「高齢者がよく服用する薬の知識」(石川)

活動: 市の介護職向けに約2時間の講義を実施。参加者40名程度(会場約20名+オンライン約20名)

内容: 一般的な薬の話が講義の大半であったが、最後に付け加えた事前質問への個別具体的な内容が良かったとの感想を頂いた。講演中の質問は無かったが、会場を出てから質問をいくつか受けた。

### ➤ 予定2/26(木) 包括支援センターときわぎ国領打合せ(布瀬川)

⇒アイデア募集中

### ➤ 1/25 調布駅伝(浅見・石川・白木・高畑・平山)

⇒40歳以上の部で61チーム中18位 来年も参加予定。

## ≪協議事項≫

### ➤ 新卒薬剤師初年度会費無料化に伴う会費規程の改定について(6月の総会で改定)

上記会長会報告を参照

### ➤ 輪番の休日当番給付金について

**予算の決定:** 長年の要望が通り、来年度から調布市より年間約130万円の予算が休日当番薬局向けに支給されることになりました。

**金額の算出根拠:** 休日1日あたりの単価×休日数で算出され、事務・振込手数料も加味されています。

**配分案:** 市から薬剤師会への一括支給後、会員薬局へ分配する形式。担当理事3名の意見では、複雑な計算を避け、単純な「延べ開局数による均等割り」が適当との案で一致し、理事全員の承認が得られました。

**課題と今後:** 振込先や具体的な運用方法は、来年度の支給開始に向けて継続審議となりました。あわせて、実績報告の管理やホームページへの掲載についても検討を進める予定です。

### ➤ 休日当番薬局の調剤人数を随時HPにアップするか

⇒現状と課題

- 薬局側の要望: 感染症流行状況を把握し、医薬品や人員配置の参考にしたい。そのため、当番薬局の報告(患者数等)を早めに共有してほしい。
- 事務局の懸念:
  - 督促の負担: 報告が遅れる薬局が多く、現状でも督促に1~2ヶ月を要している。
  - 体制変更: 事務局が2名体制となり、勤務時間も短縮される中で、これ以上の業務増(頻繁な督促やHP更新)は現時点で困難。
- 現状の対応: 市からの学級閉鎖情報は会員へ毎日送信しているが、大人の情報は得られない。  
⇒改善案と議論
- 報告率の向上策:

- 普段のメール末尾に「報告の徹底」を一文添えるなど、ルーチン化して周知する。
- 来年度からの「手当支給」と「報告」をセットにし、報告がないと支払われない仕組みを「人参作戦」として活用する。
- HP 掲載のメリット: エクセル等の表を随時更新する形にすれば、個別の問い合わせ電話が減り、情報が欲しい人は各自でアクセスできる。
- 懸念点: そもそも報告が揃わなければ HP の情報が役に立たず、「振り出しに戻る」可能性がある。  
⇒結論と今後の方向
- 段階的な導入: 事務局の新体制が安定するまで、まずは現状の業務を優先する。
- 継続検討: 掲載にあたっての薬局側の承諾の要否や、事務負担を最小限にする運用フローについて、引き続き検討する。
- 来年度出勤費規程の変更について (6月の総会で改定)  
⇒参考: 講師料1万~3万が相場
- 来年度その他会員(掲載会員)の会費値上げについて(本理事会で最終決定)  
⇒次年度の「その他会員(掲載会員)」の会費改定について協議が行われ、石川会長の提案した現在の月額5,000円から7,500円(年間9万円)への値上げが承認されました。

### 1. 改定案の背景と理由

コスト増への対応: 人件費、水道光熱費の上昇への対策。

業務負担の考慮: 掲載情報の頻繁な更新作業や、事務局の工数に見合った適正な対価の確保。

システム改善: 医療提供体制ホームページの視認性向上や、検索機能の実装など、今後の改修・維持費用の捻出。

会員間の公平性: 地域貢献活動を担う正会員との差別化を図る。

### 2. 議論の主なポイント

他地域との比較: 近隣自治体(狛江市:年間10万円、国分寺市:10数万円など)の事例と比較しても、月額7,500円(年間9万円)は妥当であり現状は安価であるとの認識で一致しました。

値上げ幅の妥当性: 一部で「1万円でも良いのではないか」という意見もありましたが、近隣相場との乖離を考慮し、今回は50%アップの7,500円で据えることとなりました。

サービスの質: 値上げに伴い、金額に見合ったサービスを提供することが重要であるとの指摘がありました。

収支見込み: 現在の29薬局の掲載により、年間90万円弱の増収が見込まれる予定です。

### 3. 結論

協議結果: 値上げに全員賛成

改定金額: 月額7,500円(現行5,000円)

初年度入会金: 現行通り(3万円)を維持

- 針付き注射筒(一体型)の回収について

オートインジェクタータイプの普及に伴い、使用後にこれらが薬局に持ち込まれるケースが増加しています。現在、市からの費用助成は注射針のみであり、CPAとしてこれら一体型は回収していませんが、回収体制を構築するべきか、協議が行われました。

### 1. 現状と課題

- 回収の死角: 現在、転居等で処方元を離れた患者が廃棄方法に困る「落とし穴」のような状況が発生している。
- 他自治体の動向: 既に他地区では回収体制が整っており、調布は対応が遅れている状況にある。
- 物理的な負担: オートインジェクターは形状が大きくかさばるため、従来の回収ボックスでは対応しきれ

ず、保管スペースや運搬の負担が大きい。

## 2. 予算要望と今後の方針

- 市への働きかけ: 健康推進課に対し、次々年度の予算化を要望するのはどうか。
- 費用の見通し: 現在の年間回収費用（約 50 万円）が、対象を広げることで倍増（約 100 万円）すると予想。市側が全額費用負担することを条件に交渉を進める。100 万円では足りないとの指摘もあった。
- 市民サービスの向上: 「注射針のみ」としている現在の規定を緩和し、針付き注射筒全般を薬局で回収できる体制を目指すことで市民サービスを向上させたい。

## 3. 会議での主な意見

- 現場の負担: 大量に持ち込まれる薬局（バケツ 5 杯分程度になるケースも想定）では、保管や搬出の作業負担が懸念される。
- 企業の独自ルート: 一部の大手薬局等では既に自社ルートでの回収を行っているケースもあるが、CPA が回収し始めた際に自社回収を止める可能性がある。その場合、予想以上に回収量が多くなることが懸念される。
- 総意: 市民サービスおよび会員サービス向上の観点からみると必要だと思われるが、まだ調査が必要な事例も多く、今後も継続審議とする。

## 日程確認

- 3/1（日）地区研修会（担当：府中市薬剤師会）CPA は来年 3 月
- 3/12（木）CPA 理事会
- 3/14（土）都薬総会（石川・飯島）、都薬連盟総会（石川）
- 3/15（日）調布医学会（平山・吉田）
- 3/16（月）三師会連絡会（石川・飯島・平山）